

政府の市大介入を許さず授業再開、民主化にむけて
強固な自治会を再建しよう

全學連支持會議

1

系、教養で授業が再開され、自動隊の駆除とつめ込みの授業以外は以前と同じである。しかし、このままでは、生徒の意識が高まらず、授業も進まず、学習も進まない。そこで、教員たちは、生徒たちの意見を尊重し、授業内容を柔軟に調整する。また、生徒たちは、教員の意見を尊重し、授業内容を理解する。このように、教員と生徒との間で、意見交換が行われ、授業が順調に進む。一方で、自動隊の駆除に対する反対意見が残る。そこで、教員たちは、自動隊の駆除に対する反対意見を尊重し、自動隊の駆除を実現するための運動を展開する。この運動により、自動隊の駆除が実現され、授業が再開される。しかし、このままでは、生徒の意識が高まらず、授業も進まず、学習も進まない。そこで、教員たちは、生徒たちの意見を尊重し、授業内容を柔軟に調整する。また、生徒たちは、教員の意見を尊重し、授業内容を理解する。このように、教員と生徒との間で、意見交換が行われ、授業が順調に進む。一方で、自動隊の駆除に対する反対意見が残る。そこで、教員たちは、自動隊の駆除に対する反対意見を尊重し、自動隊の駆除を実現するための運動を展開する。この運動により、自動隊の駆除が実現され、授業が再開される。

る。東教大では民主的な教官や学生に対する弾圧と貢献に、文部省と一体とな
る。モードル大学は抗議構想を西東のわのとしに進行させている。政府自民党の大
再編の欲望は70年代めどして強烈であり、その阻止の為には大學だけではなく
人民的な反対が必要である。今、全共斗「民主同心連盟」を中心として「大學、
法をドウカラとみなし考へがあるが文部省は「打ばくはばい。自民党はド
カラするためあれほどこの反対を押し切つて大学法を通したのは決してない。
大學に直接介入するためである。大学法を争うにドウカラとされる考へは政府自
身の大學への取扱いを用意しよつとする極めて犯罪的である。我々は、大
学の危機が主要に、文部省が正常化されこいない事を口実として立法を適用し
市大への直接的介入をあらつてゐる所にあることを深く認識しなければならぬ
ヘルメントをぬいだ全共斗「は市大危機
を根本化させようとしている。

まず向よりも市大危機の最大の犯行者、が學内におり彼らが政府文部省を學内に
出そろとしていること、それが全共斗であることを理解しなければならない。
全共斗は公然と「魔投員徹し攻団」及び大學の破壊に狂奔してきた。そして積極的
政府の介入の口実をつくりあげてきた。これは向も政府や大學当局の斗争は我
どというものが「せぬ」。全共斗リトロダキストは何年も前から「权力引出し論」
にもとづいて权力の彈圧を長時間的に引出し、そこご权力と全面的に対決するが、
という危険さあまりない論理、実践で運動を敗北に導こうとしてきた。結果際々
入と時計台攻防戦はまさにそのようなものであった。全共斗の次の日のヒラは
全共斗が民主的活動で前にご权力を引き出したところに意義があることを公表
明うかにした。

まず、全共斗が不当な封鎖によつて市大休校、廢校、反動的再編の危機にお
やり、校内非常規体制を導き出した張本人であることを認識しなければ、この
をあいまいにして次に出てくる結論はきゆめて無責任な、結局は文部省の策動
が想するものにならざる見えないのである。

まず、全英斗が不當な討伐によつて市大休校、廢校、反動的再編の危機に本
り、扶助隊第3連隊を尊き出した張本人であることを認識しなければ、この
とあいまゝにして次に出てくる結論はさやめて無責任な、結局は文部省の策動
が担するものにならざる見えないのである。

ナニのスケジユルはその

スローガン

まま運行しえなくなつた。全共斗はヘルメットをぬがざる
きえなくなつた。しかし、ヘルメットをぬいだ全共斗は別

○○大學立法粉碎
○全共斗科彈
○授業再開！

ハヒテアリナリヨリテハシテアリ

自始会再建。

し合い路線にならぬといふギマン的な戦術をヒートた。一二三

自右会再建

るものか、もつ客觀的役割が明らかになるであらう。

11.10 大阪決起集会

はうな、のである。未だ、全共斗の本質を見ぬけず、大堂

卷之三

立法など政府自民黨の攻撃の本質を正しく理解するため、
友を結集し、政府文部省の思うツボにたたき込もうとする
ヘルメットも捨てた全其斗のやういなのである。

本土の沖縄化反対
鹿児島反対

自治会再建に
なつていろ。」

右のようなことが明りヶになるならば、今政府自民党の

而太直哉有入者阻止し 大学が民主化せんがに進むべく
うないかが明らかになるだろう。

されば何よりも改革を重視する者等の意見が前回の國會に於て最も多く發せられ、政務文部省の立法適用の口実を予えない事である。

馬鹿中で考へがあるが、さきにも述べたように政府自民官

たたかニ体能とに市井において、前記の如きの運営を再建することである。理院協のあとに、学生がついていた

多くの貴女のの中に、前のような自石会なうあつてもしや

中には一人ひとりの学生であり、そのがなくして自ら人間としての成長が成らぬことは、決して珍しいことではない。

活動を強化し、下から強固な自治会建設をあこなつてゆく
ければならないのである。

われわれが連合な自省会を再建するならば、政府自民に對して女聲的な斗争に發展させることができる。

学生と教官による新しい教育、研究体制を確立し、政府の攻撃に一歩もたじつかない、強い民主主義の体制をつくり上げることができる。